

2024年4月14日 第2主日礼拝 午前10時

聖書 ハガイ1章12-15節 説教 「みことばへの応答」

先週からハガイ書の講解説教が始まりました。ハガイ、ゼカリヤ、マラキ書は、バビロン捕囚が終わり、ユダヤ人がエルサレムに戻って来た時代の出来事を記しています。捕囚から帰還した民は、神殿再建工事に取り掛かりましたが、周りの異邦人の妨害を受け、工事は18年間中断しました。そのような中で、神は預言者ハガイとゼカリヤを民に遣わしました。そして預言者は、中断している神殿工事を再開し、神殿を建てるように民を励ましました。今日はハガイ1:12-15から「みことばへの応答」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 聞き従う応答 12

1:2-11で預言者ハガイは神のことばをユダヤ人に告げました。その内容は、一つは民は神殿を建てる時はまだ来ていないと言って、自己中心の生き方をしていることです。二つ目はその結果、神の祝福を受けることができないでいることです。三つ目は「あなたがたの歩みをよく考えよ」と促し、自己中心の罪を悔い改め、神第一の生き方に方向転換して、神殿工事を再開するようにとの励ましです。その主のことばを聞いた時の民の反応が今日の箇所です。「12 シェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアと、民の残りの者すべては、彼らの神、主が預言者ハガイを遣わされたとき、彼らの神、主の御声と、ハガイのことばに聞き従った。民は主の前で恐れた。」

12節のヘブル語聖書の最初の言葉は「聞き従った」です。彼らは預言者ハガイが語る主のことばに聞き従うという応答をしたのです。Iサムエル15:22には「主は、全焼のささげ物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」とあります。民は聞き従うという、神が喜ばれる最善のみことばへの応答をしたのです。さらに「民は主の前で恐れた」ともあります。それはハガイを通して示された自己中心の罪を、神を恐れて悔い改めたということです。

彼らは1:5,7の「あなたがたの歩みをよく考えよ」という主のことばをしっかりと受け止め、主の前に静まって自分たちの歩みを考えました。その結果、神が言われるように、自分たちは「主の宮を建てる時はまだ来ていない」と言って、神殿を後回しにして、自分第一に生きて来た罪を示されました。また、収穫は少なく、満ち足りることがない生活となっていたが、自己中心の罪の結果だと示されました。そこで、彼らは神を恐れて、罪を悔い改めたのです。そして方向転換し、主のことばにアーメン、そのとおりですと言って、みことばに聞き従うという応答をしました。みことばに聞き従う応答は、政治的指導者の総督ゼルバベルと、宗教的指導者の大祭司ヨシュアが先頭を切って行いました。そしてそれに続いて民の残りの者もみことばに聞き従う応答をしたのです。

彼らのみことばの応答から、私たちのみことばの応答のあるべき姿を教えられます。私たちは、日々の生活に忙しく、自分の生活をよく考える余裕がなく、よく考えることをおろそかにし、自己満足していることがあります。その結果、自分では気づかない中で、神のみこころと神の時を見失っていることがあります。そのような中で神は「あなたがたの歩みをよく考えよ」と私たちの語られるのです。私たちが時々時間を取り、自分の歩みをよく考えること自体、神のみこころです。そのためにみことばに聞き、祈り、自分の今までの歩み、今の状況、今後の歩みをよく考えるのです。そして、もし間違いを示されたら悔い改め、行くべき道を示されたら、聞き従うのです。

詩篇139:23-24にはこうあります。「神よ、私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。私のうちに、傷のついた道があるかないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。」私たちは自分の罪や過ちを指摘されることを好ましく思いません。けれども、私たちが神に心を開いて、「私を探り、私の心を知ってください」と祈るなら、自分の内に間違った道があれば、神がそれを示してくださいます。その時には、神の前に悔い改め、神のみこころに聞き従うのです。また行くべき道を神に示されたら、聞き従うのです。そのことを生涯積み重ねていく中で、神は私たちをとこしえの道に導いてくださいます。主の前に静まり、みことばを聞き、祈り、よく考えて、みことばに聞き従う応答をしていきましょう。

2. 主の約束 13

13節は、主のみことばに聞き従う応答をしたユダヤ人に対する主の約束です。「13 主の使者ハガイは主の使命を受けて、民にこう言った。『わたしは、あなたがたとともにいる—主のことば。』」「わたしはあなたがたとともにいる」という主の臨在が、みことばに聞き従う応答をした民に対する主の約束でした。実はそれまで、神が共にいるとの神の臨在の祝福を、民は受けずにいたのです。それは彼らが神のみこころに逆らい、神殿再建工事を止め、自分の生活中心に歩んでいたからでした。神の民であっても、神に聞き従わなければ、神の臨在の祝福を受けることができません。しかし、彼らが神に聞き従う決心をした時から、神が彼らと共にいるという臨在の祝福を再び受けるようになりました。

イエスはヨハネ15:4で言われました。「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。」私たちがイエスにとどまるとき、イエスは私たちの中にとどまってくださいます。逆に言えば、私たちがイエスにとどまらなければ、イエスも私たちの中にとどまることができません。またヤコブ4:8にもこうあります。「神に近づきなさい。そうすれば、

ば、神はあなたがたに近づいてくださいます。」私たちが神に近づくな、神も私たちに近づいてくださり、神の臨在の祝福を受けることができるのです。さらにミカ 6:7 にはこうあります。「主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ、公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神と共に歩むことではないか。」神のみこころは、私たちが神と共に歩むことです。そのことによって、神も私たちと共に歩んでくださるのです。

聖書の中で神とともに歩んだ人の中にノアがいます。創世記 6:9 にはこうあります。「ノアは正しい人で、彼の世代の中であって全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。」ではノアは具体的にどのようにして神とともに歩んだのでしょうか。それは神のことばに聞き従うことによってです。神はノアに、罪に満ちる地を洪水で滅ぼすから、巨大な箱舟を作り、そこに入って救われるようにと伝えました。その時ノアはどうしたのでしょうか。創世記 6:22 「ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。」その結果、箱舟に乗ったノアと彼の家族と動物だけが救われたのです。

神と共に歩むことはみことばに聞き従って歩むことです。そのような人と神は共に歩んでくださるのです。ハガイを通して語られたみことばに聞き従ったユダヤ人にも、神が共にいるというすばらしい約束が与えられました。

神が私たちと共にいてくださる時、私たちは具体的にどのような祝福を受けるのでしょうか。まずみこころを行うための力が与えられます。「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。」とあります。その神の力を受けて、「エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てにまで、わたしの証人となります」という世界宣教の働きを行うことができるのです。また神の助けと神の守りが与えられます。イザヤ 41:10 「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。私があなたの神だから。私はあなたを強くし、あなたを助け、私の義の右の手で、あなたを守る。」神の助けと守りがあるなら、私たちは勇氣百倍で働くことができるのです。

3. 仕事に取り掛かる 14-15

14-15 「14 主が、シェアルティエルの子、ユダの総督ゼルバベルの霊と、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアの霊と、民の残りの者すべての霊を奮い立たせたので、彼らは自分たちの神、万軍の主の宮に行き、仕事に取りかかった。15 それは第六の月の二十四日のことであった。ダレイオス王の第二年、」ここには民が神殿再建の仕事に取り掛かるまでの三段跳びならぬ四段飛びのプロセスが記されています。第 1 に、ユダヤ人が主のことばを聞いた時、聞き従いました。第 2 に、神はみことばに聞き従った民に「わたしはあなたがたとともにいる」という臨在の約束を与えられました。第 3 に、それを聞き勇氣を得た民の霊を神は奮い立たせました。第 4 に、彼らは主の宮に行き、仕事にとりかかったのです。

実際に彼らが主のことばを聞き、仕事に取り掛かるまで 23 日あったことが記されています。その間、彼らは誠実に神のことばに向き合い、自分たちの歩みをよく考え、みことばに聞き従う応答をしました。その結果、彼らは神の臨在の祝福を得ました。そして彼らの霊は奮い立ち、仕事に取り掛かる準備をし、ついに仕事に取り掛かることができました。彼らはみことばの応答という心の中での信仰を、実際に行動で示しました。どんなに信じます、従いますと言っても、実際にその信仰を行動で現わさない限り、先に進むことはありません。彼らは信仰を実践し、仕事に取り掛かることによって、18 年間中断していた工事が再開し、主の宮から、大工仕事の音が聞こえて来たのです。彼らの仕事には、神の力と助けと守りが確かにありました。

彼らのみことばの応答から、私たちのあるべき姿を教えられます。信じて従うみことばの応答とは、実際に行動が伴うということです。ある人はイエスの福音を聞いて信じたいと思うでしょう。信じたいと思うのなら、実際に信じるのが大切です。信じたいと思うだけでは、まだ自分の心の戸をイエスに対して開いていません。信じたいと思うところから、一歩踏み出して信じるためには、自分の心を神に開き、「イエスを私の救い主と信じます」と祈ることです。そうすると、イエスはその人の心にお入りくださり、神とともに歩む人生が始まります。

また悔い改めが必要だと思うなら、実際に神の前に自分の罪を言い表し、主の赦しを求めることです。そうすれば神は私たちの罪を赦し、イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。またイエスに従う決断を迫られる課題や出来事があれば、実際にイエスに従う道に一歩踏み出すことです。そうすれば神はあなたと共にいて、神に従って歩む力を与えてくださいます。ピリピ 2:13 には「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です」とあります。ですから、祈りのうちに神が与えてくださった志だという確信を持ったなら、一歩踏み出すことです。そうすれば神があなたと共にいて、あなたに事を行う力を与えてくださいます。ユダヤの民はハガイを通して語られた主のことばに聞き従い、実際に仕事に取り掛かりました。神は約束どおり、彼らとともにいて、彼らに力を与え、彼らを助け、彼らを守って、神殿を再建することができたのです。

4 月に入り、新年度を迎え、教会も 39 周年の歩みに入っています。新年度も主のみことばに聞き従う歩みをしましょう。聞き従うことは神とともに歩むことです。神とともに歩む者に、神も共にいてくださいます。そして私たちの霊を奮い立たせ、私たちを仕事に取り掛からせてくださいます。私たちも伝道と教会形成という奉仕の働きに取り組みましょう。またそれぞれが神から示される事柄に、信仰によって一歩踏み出しましょう。そして、「わたしは、あなたがたとともにいる」と

いう主の臨在の祝福に共にあずかりましょう。